

豪雨への備え

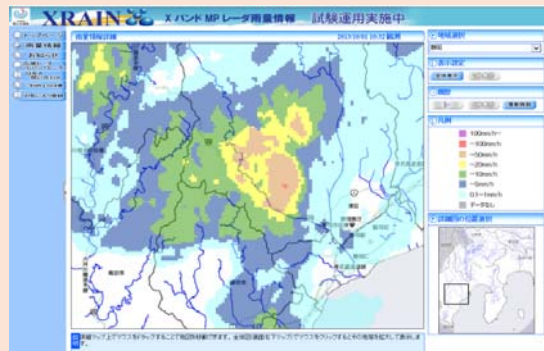
排水機場編

近年、大雨の日数が増加傾向にあり、湛水被害が増加する可能性があります。そのため、豪雨に対する日頃からの備えが重要であり、施設操作方法の見直しと安全管理体制の強化等も必要となっています。

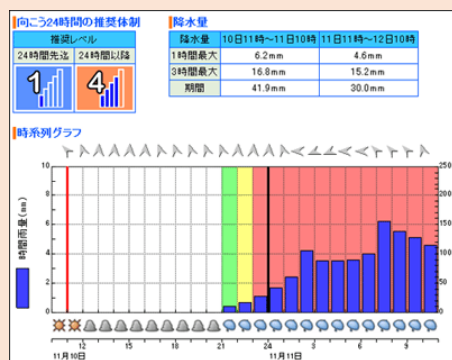
農林水産省では、全国の約40の排水機場管理者を対象に、施設の管理について聞き取り調査を行い、中から16事例を「豪雨に対する備えと対応（参考事例）」としてまとめました。今後の排水機場の管理の一助となれば幸いです。

■平常時の備え（参考事例より）

きめ細かな降雨情報の入手・活用



レーダー雨量情報（国土交通省）



民間気象会社の防災情報

管理記録・マニュアルの整備

- ◆通常運転（雨量等観測しない日）
 1. 常用ポンプ1台 翼角0° 運転
 - ①かんがい期 「-2.45m」▽常用ポンプ始動（4月～8月） 「-2.55m」▲ // 停止
 - ②非かんがい期 「-2.45m」▽ // 始動（9月～3月） 「-2.60m」▲ // 停止
 2. 雨量等観測がない場合でも、下記においては、常用ポンプ2台運転にて対応する
 - ①常用ポンプ1台運転で〇〇〇濁水位が変動しない場合
 - ②〇〇〇濁水位が「-2.45m」より上昇するおそれがある場合
 - ③見込み運転など特別な事情により水位を早急に低下させる場合
- ◆降雨時等運転
 1. 「-2.45m」を上回ると想定 ▽常用ポンプ 2台目始動 ▽翼角「可変」操作
 2. 「-2.38m」 // ▽GTポンプ 1台目始動
 3. GTポンプ1台目始動をもって、別紙 洪水警戒マニュアル「警戒第一配備」とする
 4. GTポンプの運転開始については、郷内降雨状況、基幹排水路の水位、気象状況等により、必要と判断される場合は、早めに始動させること
 5. 警戒第一配備後の運転については、別紙 非常災害時等操作・対応マニュアルによる
- ◆見込み運転
 1. 「夜間見込み運転」

概ね夕方から、常用ポンプ運転を開始

 - ①かんがい期 22:00を目処に「-2.55m」▲常用ポンプ停止
 - ②非かんがい期 // 「-2.60m」▲ // 停止
 2. 「降水量観測・降雨等予想時の見込み運転」

郷内の降雨状況にあわせ〇〇〇濁水位を見込み運転により、事前に低下させる

 - ①大雨・洪水注意報が発表された場合、「-2.65m」を目処とする
 - ②大雨・洪水「警報」が発表された場合、「-2.70m」を目処とする

（注1）常用ポンプ2台運転で「〇〇〇濁水位が変動しない」場合又は、状況に応じて必要

体制づくり、資材整備

- 協力体制の構築
- 応急資材の準備
- ハザードマップの配布
- 防災訓練

見回り・点検

- 施設の変状チェック
- 流入塵芥や堆積土砂の処理
- 場内の除草、清掃
- 操作説明会や講習会の開講

■豪雨・洪水時の管理方法（参考事例より）

情報収集

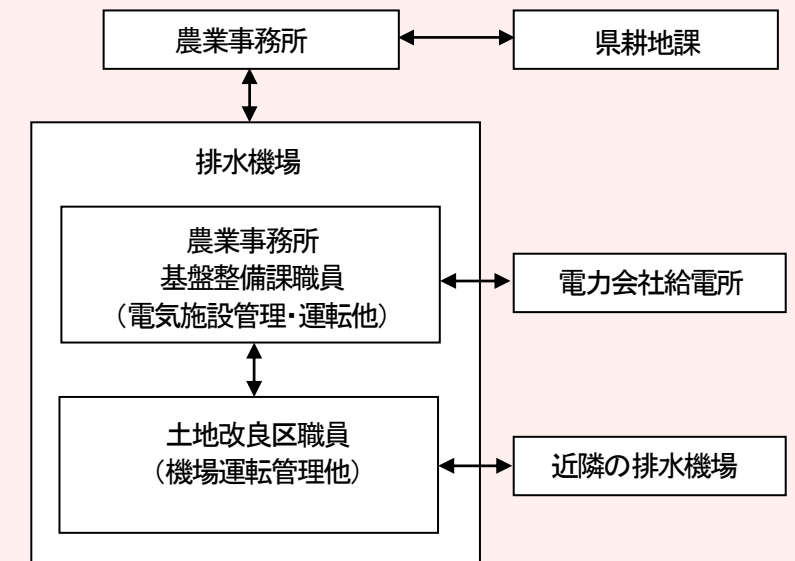


携帯端末で遠隔監視



WEB 監視現況

他団体・組織との連携



内水の排水

- 予備運転を行い、事前に内水位を低目に
- 河川管理者と連携して効果的な排水の実施

連絡・警戒体制

- 要員の確保
- 一般住民への周知

被災時の応急対応



揚排水機場内が浸水し、モーターを吊り上げて排水を行った。



応急排水ポンプをポンプ会社や農政局より借用し、湛水排除を行った。

「豪雨に対する備えと対応（参考事例）」について

本リーフレットに記載した内容はインターネットで閲覧できます。

http://www.maff.go.jp/j/nousin/kantai/tekiou/tameike_haisui_kijyou_sankou.html